

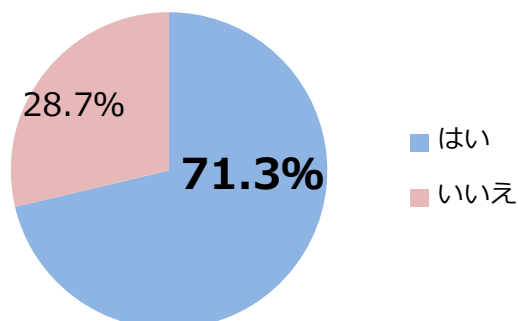
当レポートでは2015年末までに統合報告書を発行している224社のレポート内容を分析しておりますが、今回は番外編として「日経IR・投資フェア2016」の来場者データをベースとした「個人投資家のサステナブル投資に関する動向」について皆様にご報告申し上げます。

2016年8月26・27日に東京ビッグサイトに於いて「日経IR・投資フェア2016」が開催されました。来場者数は2日間合計で16,115人となり、出展企業のブースで開催されたミニ会社説明会でも各社で立ち見が出るなど、盛況に終わりました。

各社の展示内容を見てみると、売上高中心の訴求から「いかに稼ぐか」についての訴求に変化していました。各企業ブースに掲示されているパネルには、今まであまり見受けられなかった「事業を通じた社会貢献」「CSR活動の紹介」「企業価値」の文字が散見されました。ESG情報を通して個人投資家とコミュニケーションを取ろうとする企業が確実に増加している事が見てとれます。

一方、個人投資家はどの程度企業の社会貢献について意識をもっているのでしょうか。今回「日経IR・投資フェア2016」に来場された個人投資家116名に簡単なアンケート調査を実施しました。CSRという言葉そのものを「知っている」と回答した個人は7割を超えており、各種メディアで

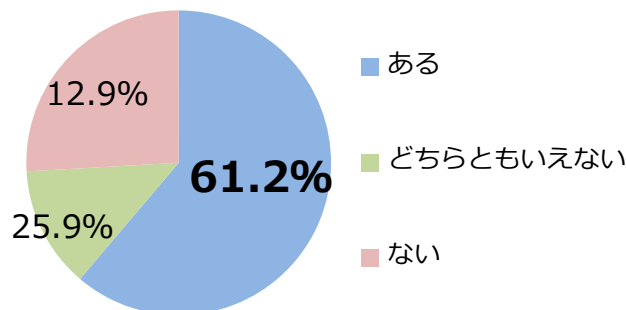
【「CSR」という言葉を知っていますか？】



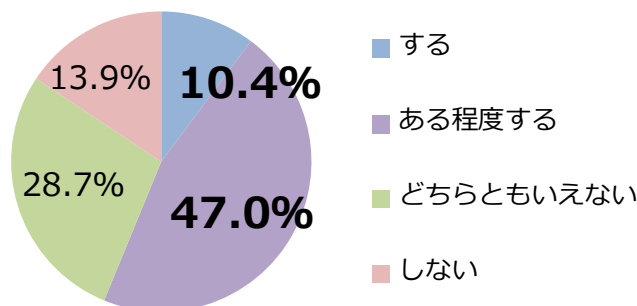
の報道の影響もあって言葉そのものが個人の間にも浸透してきたことが窺えます。

また「企業の社会貢献活動について興味はありますか？」という質問に対しても6割以上の個人投資家が「ある」と回答しているほか、投資判断に社会貢献活動を意識する個人投資家も5割以上に上っており、個人投資家にも責任投資の余波が着実に届いているようです。

【企業の社会貢献活動に興味はありますか？】



【投資判断を行う際、投資先の社会貢献活動について加味しますか？】



機関投資家だけではなく、個人投資家とのコミュニケーションにも統合報告書は確実に活用されていくでしょう。企業はフェアディスクロージャーという基本に立ち返り、コミュニケーションの活性化を考えていく必要があります。